

## アドバイス・レポート

平成 19 年 3 月 26 日

平成 19 年 1 月 18 日付けで第三者評価の実施をお申込みいただいた（京都市久世老人デイサービスセンター・指定通所介護事業所）につきましては、第三者評価結果に基づき、下記のとおりアドバイスをいたしますので、今後の事業所の運営及びサービスの提供に役立ててください。

## 記

評価が高かった点	<p>I 健全な組織体制について  (1) ①②③ (2) ②③④ (5) ①</p> <p>II 適正なサービス提供体制について  (1) ①②③④ (3) ①② (4) ①②</p> <p>III 利用者保護の観点について  (1) ①②③④ (2) ②</p> <p>IV サービスの質の向上の取り組み  (2) ①②</p>
理由	<p>I 健全な組織体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「明るく」「正しく」「仲よく」と理念をわかりやすく置きかえ、玄関に入れば手書きの掲示が目に入ります。手すりのすぐ上の低い位置での掲示も利用者には見やすいです。また、職員が身に着けている名札の裏面に理念に沿った心得があり、いつでも振り返れるようになっています。</li> <li>・責任者等は各会議に出席し、意見、助言を行いサービスの向上に努め、業務日誌等から日々の状況を把握しておられます。年 2 回のヒヤリングからスタッフの意見を聞き、問題点を明らかにし運営に反映させておられます。理事会や経営委員会の会議報告システムも整っています。</li> <li>・資格取得のための補助制度があります。</li> </ul> <p>II 適切なサービス提供体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の心身の状況が細かく記載され、特に身体の記録（排便コントロール）は家族にも協力を求め、デイでのサービスに留まらずひとり一人の生活がトータルされた記録になっています。</li> <li>・40分のミーティングの中でカンファレンスが行われ、検討内容及び決定事項等は第三者評価を受けるプロセスの中で、書式を改め記録の適切化がすでに実行されています。</li> </ul>

	<p><b>Ⅲ利用者保護の観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にサービス向上委員会の中で利用者の尊厳を守るための話し合いがされ、言葉使いに始まって、プライバシーポリシーに至るまでの検討、見直しがなされており、全職員に書面で配布することで周知徹底が計られています。</li> <li>・守秘義務の誓約書が交わされ個人情報ハンドブックが全職員に配布され周知徹底されています。</li> <li>・利用者の受け入れに関しても規定が設けられています。</li> <li>・食事メニュー、飲み物メニューからの選択、午後のレクリエーションもそれぞれの好みによって選択できるようになっています。利用者へのヒヤリングでも楽しみにされている様子が見え、利用者本位のサービス提供がなされ、利用者の自己決定や意思が尊重されています。</li> </ul> <p><b>Ⅳ質の向上の取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の利用者アンケートと調査結果の検討会を実施し、利用者に結果の報告を行っています。月2回サービス向上委員会を開催、パート職員に対しても別途検討会議を2ヶ月に1回開催し、サービスの向上の随時見直しと評価を行っています。</li> </ul>
<p><b>改善努力を要する点</b></p>	<p><b>I 健全な組織体制</b>          (3) 労働環境 ①②③</p> <p><b>II 適切なサービス提供</b> (2) ④⑤</p> <p><b>Ⅲ利用者保護の観点</b> (2) ④</p>
<p><b>理 由</b></p>	<p><b>I 健全な組織体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリング等から利用者の様々な要望には耳を傾け応えられているのが伺えますが、業務量の適切化、有給の取り方など常勤への負担感も持っておられます。職員の増員もなされる中、相談や工夫をしながらのやりくりで、(常勤者でも思いは色々でしょうが) さらに一体感のもてるチーム作りがのぞまれます。</li> <li>・独立した休憩場所はありませんが、休憩時間はきちんと取ることが出来、思い思いの場所で休憩しておられます。機会があれば独立した休憩場所が設けられるとよいですね。</li> </ul> <p><b>II 適切なサービス提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアプランと介護計画は連動されていますが、介護計画と介護記録の連動が見受けられませんでした。職員のヒヤリングでは介護計画に添ったケアを提供していると聞き、また施設の見学時には統一されたケアが提供されていました。今後記録として残される工夫を期待いたします。</li> </ul> <p><b>Ⅲ利用者保護の観点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの作成、ボランティアや実習生の受け入れ等、目標は充分達成されていますが、機関紙の発行が中断しており、地域密着と言う観点から目標が達成できていないとの前向きな発言がありました。実現にむけて努力していただくことを期待いたします。</li> </ul>

## 具体的なアドバイス

- ・地域への情報公開は、必ずしも機関誌にこだわる必要はなく、数少ない認知症対応型のデイを運営され認知症専門士がいるのであれば地域への講師派遣や、国で取り組んでいる認知症サポーター養成講座などを開催して、認知症への理解を広げていく取り組みなどを考えられてはいかがでしょうか。
- ・認知症の人への地域全体での見守りなど事業所を地域の社会資源の中心として活用してもらうなどの取り組みも考えられるのではないのでしょうか。
- ・一般型と認知症対応型のデイが同じフロアで実施されているのにもかかわらず、落ち着いた雰囲気で適切な援助がなされているのが実感できました。職員と利用者の見分けが出来ないほどさりげない援助が提供され全体のゆったりした雰囲気作りが印象的でした。評価をうけるのにあたり、出来ていないところを話し合い、書式を改め、それらがすでに実施されていることは意義があると思います。このことに留まらず課題も認識され責任者等の真摯な態度と熱意が見受けられました。今後もさらにサービスの向上に努められることを期待いたします。

(様式6)

## 評価結果対比シート

事業所番号	2670500012
事業所名	京都市久世老人デイサービスセンター指定介護事業所
サービス種別 (複数記入可)	通所介護・認知症対応型通所介護
評価機関名	特定非営利活動法人 京都府認知症グループホーム協議会

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
I 健全な組織体制	(1)組織の理念・運営方針	① 理念の周知と実践	組織の理念が、利用者及びスタッフ等に周知され、法人の理事長及び事業所の管理者等（以下、「責任者等」という。）を含むスタッフ全員が、理念に沿ったサービスの提供を実践している。	A	A	
		② 運営方針の周知と実践	事業所の運営方針が、利用者及びスタッフ等に周知され、責任者等を含むスタッフ全員が、運営方針に沿ったサービスの提供を実践している。	A	A	
		③ 運営規程の遵守	事業所の運営規程が、利用者及びスタッフ等に周知され、責任者等を含むスタッフ全員が、運営規程に沿った事業所の運営及びサービスの提供を実践している。	A	A	
	(2)組織体制	① 責任者等の協働	責任者等は、介護サービスの質の向上に熱意を持ち、事務所の運営について、スタッフと共に取り組んでいる。	A	A	
		② 管理者による状況把握	管理者は、事業の実施状況等を把握し、いつでもスタッフに対して具体的な指示を行うことができる。	A	A	
		③ 透明性の確保	責任者等は、公正・適切なプロセスで意思決定を行い、組織としての透明性の確保を図っている。	A	A	
		④ 支援体制の充実	利用者の主治医や医療機関・介護保険施設との間で、連携体制又は支援体制が確保されている。	A	A	
	(3)労働環境	① 労働環境への配慮	質の高い介護サービスを提供することができるよう、スタッフの労働環境に配慮している。	B	A	
		② ストレス管理	スタッフの業務上の悩みやストレスを解消するために、具体的な取組みを行い、業務の効率を高めている。	B	A	
		③ 休憩場所の確保	スタッフが充分にくつろげ、心身を休めることができる休憩場所を確保し、必要な設備・備品を備えている。	C	A	
	(4)課題の設定	① 重点課題の設定	外的環境の変化や傾向を見極めた上で、事業の運営における重点課題が設定され、組織全体として課題の達成が図られている。	A	A	
		② 業務レベルにおける課題の設定	各業務レベルにおいて課題が設定され、スタッフ全員が課題の達成に取り組んでいる。	A	A	
	(5)人材の確保・育成	① 質の高い人材の確保	スタッフの採用時において、質の高い介護サービスを提供できる人材の確保を主眼としている。	A	A	
		② 継続的な研修の実施	採用時研修・フォローアップ研修等を実施しており、スタッフは、段階的に必要な知識や技能を身につけることができる。	A	A	
		③ OJTの実施	スタッフが業務を通じて日常的に学ぶことを推進しており、スーパーバイズ（指導・助言）を行う体制がある。	B	A	
	小 計(A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				25	30

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
II 適正なサービス提供体制	(1)サービスの品質の確保	① 業務マニュアルの作成	事故防止や安全確保を踏まえた業務マニュアルが作成され、スタッフに活用されている。	A	A	
		② サービス提供に係る記録	利用者の状況及びサービスの提供状況等が適切に記録されており、サービス提供を円滑に行うための工夫がされている。	A	A	
		③ 確実な情報伝達	スタッフ間の申し送りや情報伝達を確実に行うとともに、重要な事項については、全てのスタッフに伝わる仕組みとなっている。	A	A	
		④ ケアカンファレンス	定期的又は必要に応じてケアカンファレンス（介護検討会）が開催され、意見交換が行われている。	B	A	
	(2)個別援助計画	① アセスメントの実施	利用者一人ひとりの心身の状況や生活状況、利用者及びその家族の希望等を踏まえたうえでアセスメントを行っている。	A	A	
		② 個別援助計画の作成	アセスメントに基づき、利用者一人ひとりの目標を明らかにした個別援助計画を作成している。	A	A	
		③ 専門家等に対する意見照会	個別援助計画の策定に当たり、必要に応じて利用者の主治医・OT/PT・介護支援専門員・他のサービス事業所等に意見を照会している。	A	A	
		④ スタッフの意見の集約	個別援助計画の策定に当たっては、当該利用者に関わる全てのスタッフの意見を採り入れており、共通認識に基づく目標達成が図られている。	B	A	
		⑤ 個別援助計画の見直し	定期的又は必要に応じて、個別援助計画の見直しを行っている。	B	A	
	(3)利用者等の希望尊重	① 利用者・家族の希望尊重	個別援助計画の策定及びサービスの提供内容の決定に際して、利用者及びその家族の希望を尊重している。	A	A	
		② 希望等を引き出す働きかけ	利用者やその家族が、希望や要望、気掛かりなこと等をスタッフに気軽に伝えたり、相談できる機会を確保している。	A	A	
	(4)衛生管理	① 感染症の対策及び予防	感染症の対策及び予防に関するマニュアルの作成等により、スタッフ全員が感染症に関する知識をもってサービスの提供を行っている。	A	A	
		② 事業所内の衛生管理等	施設（事業所）内における物品等の整理・整頓及び衛生管理を行い、効率的かつ安全なサービスの提供を行っている。	A	A	
	(5)危機管理	① 事故・緊急時等の対応	事故や緊急時等における対応等を定めたマニュアルがあり、年に1回以上、必要な研修又は訓練が行われている。	B	A	
		② 事故の再発防止等	発生した事故等に係る報告書や記録を作成し、事故の再発の防止のために活用している。	B	A	
	小 計(A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				25	30

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ 利用者保護の観点	(1)利用者保護	① 人権等の尊重	利用者の人権や意思の尊重について、常に問題意識をもってサービスの提供を行っている。	B	A
		② プライバシー等の保護	利用者のプライバシーや羞恥心について、常に問題意識をもってサービスの提供を行っている。	B	A
		③ 個人情報保護	利用者の個人情報の保護及び職務上の守秘義務について、スタッフに徹底している。	A	A
		④ 利用者の決定方法	サービス利用者等の決定を公平・公正に行っている。	A	A
	(2)情報提供	① 事業所情報等の提供	事業所の概要及びサービス内容について、利用者やその家族にわかりやすく説明を行っている。	A	A
		② 利用者に係る情報交換	サービス利用時の状況について家族に情報提供を行い、家族から家庭での状況について情報を得る等、情報交換を行っている。	A	A
		③ 開示請求への対応	利用者やその家族から、提供を受けたサービスの内容や費用の明細等について情報開示の請求があった場合には、適切に対応している。	A	A
		④ 地域への情報公開	事業所の運営理念を地域に対して啓発・広報するとともに、事業所の機能・知識等を地域社会に提供している。	B	B
	(3)利用契約	① 料金の明示と説明	介護サービスの利用に際して必要となる料金について、根拠を明らかにして利用者にわかりやすく説明している。	A	A
		② 合意書面の作成	サービスの提供開始に当たっては、利用者及び事業者双方の権利・義務を明らかにし、合意の結果を契約書等として書面にしている。	A	A
	小 計 (A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				17

大項目	中項目	小項目	評価項目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅳサービスの質の向上の取組	(1)苦情解決	① 苦情・相談窓口の明示	利用者からの苦情や相談を受けつける窓口及び担当者等が明示され、利用者及びその家族に周知されている。	B	A
		② 苦情やトラブルへの対応	苦情やトラブルがあった場合には、組織として迅速かつ誠意をもって対応している。	A	A
		③ 第三者への相談機会の確保	公的機関等の窓口相談や苦情を訴えるための方法を、利用者及びその家族に周知している。	A	A
		④ 苦情に基づくサービスの改善	利用者からの苦情をサービスの向上に役立てている。	A	A
	(2)質の向上に係る取組	① 利用者満足度の把握	利用者の満足度を把握し、サービスの質の向上に役立てている。	A	A
		② 質の向上に対する検討体制	サービスの質の向上に係る検討体制を整備し、責任者等を含むスタッフ全員が積極的に参加している。	A	A
		③ 評価の意義についての周知	サービス評価を行うことの意義及び評価結果をサービス改善に活かすことが、責任者等を含むスタッフ全員に周知され、理解されている。	A	A
	(3)評価の実施	① 自主点検の実施	京都府が各事業所に配布している「自主点検表」を活用して、年に1回以上、自主点検を行っている。	A	A
		② 自己評価の実施	事業所の体制及びサービスの内容に係る自己評価を定期的又は必要に応じて行い、自らが提供するサービスの質の改善に役立てている。	A	A
		③ 第三者評価の受け入れ	客観的なサービス水準の把握のために第三者評価を受け、評価結果を積極的に公表している。	A	A
小 計 (A=2点、B=1点、C=0点として点数化のこと)				19	20

【大項目ごとの点数】

大項目	自己評価	第三者評価結果
I 健全な組織体制	25	30
II 適正なサービス提供体制	25	30
Ⅲ 利用者保護の観点	17	19
Ⅳ サービスの質の向上の取組	19	20

【達成率換算表】

大項目	達成率			
	自己評価		第三者評価	
I 健全な組織体制	25/30	83%	30/30	100%
II 適正なサービス提供体制	25/30	83%	30/30	100%
Ⅲ 利用者保護の観点	17/20	85%	19/20	95%
Ⅳ サービスの質の向上の取組	19/20	95%	20/20	100%

